

さつまいも

科名：ヒルガオ科
 原産地：メキシコ、南アメリカ南部
 生育適温：20～30 発芽適温：25～30
 別名：かんしょ、からいも

栽培カレンダー

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
普通栽培						植付け						収穫
						x-----						

栽培に必要なもの(10 m²あたり)

さつまいもの苗.....42本

肥料:元肥用化成肥料(10-8-9)0.5kg

ポリマルチ(90cm).....25m



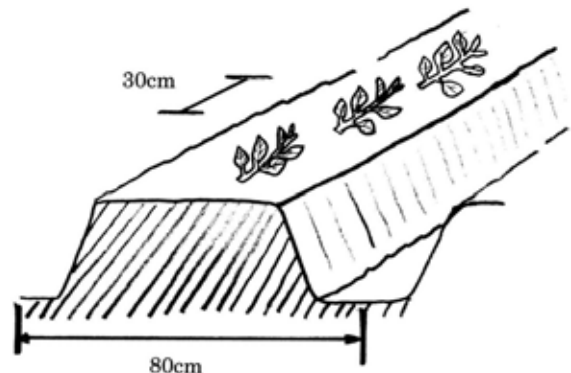
畑づくり

- ・ 土質はどんなところでもよく、砂が多い土壌では生育が早く、逆に粘土が多い土壌では生育がおそいが、丸型のいもとなり収量があがります。
- ・ 土壌は肥沃な土よりやせ地の方がよく、酸性土壌でもよくできます。このため、堆肥や石灰は施用しません。
- ・ 元肥を施しすぎると、つるぼけになって、いもの生育が悪くなるので、前作での肥料が残っている場合は元肥を施用せずに栽培します。

植付け

うね幅 80cm 株間 30cm 1条植え

- ・ 地温は15℃以上必要であるため、5月中旬までに植える場合は黒ポリマルチをして、地温を上げてから植え付けます。マルチをしない場合は5月下旬から6月上旬が適期となります。
- ・ 苗は、節間のつまった25～30cmくらいのしっかりしたものを選びます。



広島市内産「さつまいも」

市内には、さつまいものまとまった産地はありませんが、産地直売用や観光いもほり園としての栽培があります。比較的手間がかからず、やせた土地でも栽培できるので、農業体験向きの作物です。

- ・ 苗の植え方には、いろいろな方法がありますが、一般的に長い苗(30cm、本葉 7~8 枚)は水平植えに、短い苗は斜め植えとします。また、マルチ栽培の場合は斜め植えとします。



直立植え

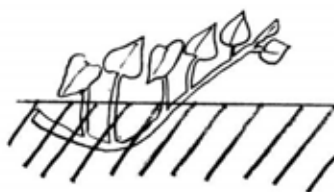


釣り針植え



斜め植え

- ・ 植付けは曇りの日が適当ですが、晴天時に植えた場合はわらなどで日覆いをして、葉が乾燥するのを防ぎます



舟底植え



水平植え

追肥と土寄せ

- ・ 追肥は特に必要ありませんが、元肥を少なくした場合には、植付け後 1 ヶ月くらいの時期に、うねの肩の部分に施し、軽く土と混合します。
- ・ 雑草が多い時は、除草するとともに、株元に土寄せをおこないます。
- ・ つるがのびてきたら、つるの節から根が出るのを抑えるため、つる返しを行います。マルチ栽培の場合は節が土に触れないので、この作業は不要となります。

収穫

- ・ 早掘りする場合は、9 月中旬くらいから収穫できますが、遅く収穫する程、収量は増えます。
- ・ 霜が降りるまでには収穫し、12~15℃ で保存します。家庭で貯蔵する場合は、いもを一つずつ新聞紙でくるみ、発泡スチロールのとり箱に入れて、暖かい室内で保存します。



さつまいもには、ビタミン C がみかんと同じくらい含まれているほか、ビタミン B₁、B₂ も豊富に含まれます。さらに繊維質が多く、便秘にも効果的で美容と健康によいアルカリ性食品です。

カロリーは米の 3 分の 1 で、胃に長く留まるため空腹感が少なく、ダイエットにぴったりの食品です。

また、紫色をしたさつまいもはアイスクリームなどの菓子類や、豆腐、うどんなどの色着け材料としてよく利用されています。